

令和6年度第4回 久留米市学校給食運営審議会 会議録

- 1 開催日時
令和6年10月10日（木）19時00分～19時50分
- 2 開催場所
久留米市役所本庁舎3階 308会議室
- 3 出席者
(委員)
安倍会長、野中副会長、梅木委員、廣重委員、中野委員、横田委員、
吉田委員、中村委員、郡委員
(事務局)
重石教育部長、平田教育部次長、猪飼部補佐
深田学校保健課長、馬場学校給食共同調理場所長 ほか4名
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議録

【審議事項】

- ・答申書（案）について

※久留米市情報公開条例第7条第6号に規定する不開示情報に該当する事項を含むため、審議事項にかかる会議録および会議資料は非公表

【報告事項】

- (1) 地産地消の取組状況について

事務局より説明

(質疑応答・意見)

- 委員 地産地消の品目ベースでは率が高いが、金額ベースで低いのはなぜか。
- 事務局 じゃがいもなど、久留米産が少ない野菜がある。地場産の農産物ですべてが揃うといいが、量的にも金額的にも難しいところがあり、なかなかその目標まで達していない。また、原因の1つとして、物価高騰もあるかと思う。
- 委員 米の産地はどこか。
- 事務局 米は県の給食会を通じて、すべて久留米産の米を使っている。
- 委員 地産地消、食育を目的として、JA青年部で給食用のじゃがいもを栽培しており、今年で20年目になる。
市内5か所で栽培し、地区によっては、地元の小学生を呼んで、一緒に定植や収穫活動をしており、今年は70アールで作付けし、10トン近く収穫している。
学校給食用として、減農薬で除草剤も使わないようにしていて、その分病気や虫

食いも多少あって、納入できるのは、7割といったところ。製品にならないものは子どもたちが持ち帰ったりしている。毎年、じゃがいもの畑が水に浸かったりして、生産率が落ちることが課題となっている。

青年部 12 支部では、各地区でサツマイモや米などの栽培、収穫体験や餅つきなど農業体験や食育に少しでも携われるように活動している。

物価高騰というところで、農業資材も高騰していて、特に肥料は5年間で倍以上の価格になっている。農家としても、資材代の高騰により、学校や市場に卸すのも、価格が上がっていると感じている。

○委員 中学校では、小学校に比べて生産者の方と交流できる機会が授業の中でも持ちづらい現状があるが、実際見て、触れることで、子どもたちが学ぶことも多くあると思うので、中学校でも、授業での取り組みや、給食を通して地場産食材のよさを伝えていきたい。

○委員 学校と連携して、田植えや収穫などの農業体験をしていただける方が高齢化して実施が難しい現状があると聞くが、青年部ではどうか。

○委員 青年部も20年前から比べると2〜3割の人数になっているようで、少ない支部では、OBに協力してもらっている。子どもたちと関わることになると、年配の方たちの方が多く参加している印象がある。

○会長 子どもたちの食育のためにもぜひ続けてほしいし、今後、このような素晴らしい取組が広がっていくことを期待している。

（2）久留米市学校給食コンクールについて

事務局より説明

（質疑応答・意見）

○会長 料理コンクールの具体的な成果は。

○委員 調理員は、日ごろ栄養士が作った献立で調理しているが、自分考えた献立となると、よりおいしく提供したいという思いがよい影響となり、日々の業務でも以前よりも、こうした方がよくなるという前向きな姿勢になったように感じる。また、2月の献立に取り入れる予定にしている。

○委員 入賞献立や他のチームの献立などは各学校へ共有されているのか。

○事務局 入賞した献立は全校に共有している。